

農業技術 プリズム

施しました。その結果、「にこまる」は「ヒノヒカリ」に比べ、いずれの移植期も多収で検査等級も高く、中でも6月中旬から7月上旬の移植で収量が高く安定しました。
登熟前半の高温で発生する青白粒は、「ヒノヒカリ」では出

県農林技術開発センター

水稻「にこまる」は「ヒノヒカリ」に比べて収量・食味とも遜色（そんしょく）なく、高温



古賀主任研究員

による品質低下が少ないことから平たん部を中心に普及が進んでいます。しかし、近年の温暖化の中、品質向上を目指す場合、品種に適した高温障害を回避できる移植期の説明が急務になっています。そこで「にこまる」の移植期について検討しました。

試験は移植期を5月中旬から7月上旬まで7時期設定し、実

障害回避向け説明

水稻「にこまる」移植 高温条件の適期検討

穂後20日間の平均気温が26度を超えると多発するのに対し、「にこまる」では27度まで発生が少ないことが分かりました。

これらをもとに推定した諫早平たん部での「にこまる」の移植適期は、平年の気温では5月25日から6月28日、平年より気

温が1度高くなった場合は6月22日から7月13日となります。

品質の良い「にこまる」の生産のためには、適期移植とともに水管理など基本的な管理も適切に実施しましょう。

移植時期の変更をする場合は、育苗や水管理など地域でのまとまった取り組みが必要となります。

（県農林技術開発センター農産園芸研究部門作物研究室主任 研究員・古賀潤弥）

気温が1度上昇した場合の諫早平たん部の移植適期推定

品種	平年との 温度差	好適移植期		好適出穂期		成熟期	
		早限	晚限	早限	晚限	早限	晚限
にこまる	0℃	5/25	6/28	8/27	9/2	10/10	10/18
	+1℃	6/22	7/13	9/3	9/7	10/17	10/23

注) 移植期の推定は総合農林試験場開発の水稻生育シミュレーションによる